

北海道  
札幌大学

田三郎  
殿





兵庫縣武庫郡

小蘆屋

鳥居赫雄

電話小蘆屋二三

ふまゝなる事あるべし

ワザから日本改革

の命を深

河に其は用事

少事其の夕上事の

浮舟野夫妻を病院

にんあふ 遊塊にす

上事その中上事あり

文事ある人を知る

事ある 荆妻に上事を

命し 上事送り 泊し

乙直事 西下、病況に

尺如公、二十五年

今上皇陛下御

乙直下、西下、病況に

見如公、二十有年、

其の夫人、終に

此待、いしが特郎の

心中、いしが地、いしが

の人、いしが中、いしが特郎の

有之、いしが喜、いしが長、いしがす

先づ、いしが家、いしが来、いしが行、いしがは

知、いしがせ、いしが極、いしが少、いしが多、いしがに、いしが富、いしがの

其、いしが特郎、いしが先刻、いしがの

電話、いしが東、いしが下、いしが妻、いしがから、いしがに、いしが大

に、いしがい、いしがく、いしがに、いしがい、いしがる、いしがか、いしがに、いしがい、いしが院

より、いしが中、いしが是、いしがの、いしが事、いしがを、いしがら、いしがん

電話（おとど）妻から）に大

にどうしてにどうかにかい

ふと一息のそとらん

さ橋あしよおとど

いかにいかにいかにいかに

将には急ぎせよいかに

手さ持のさ張居た

姉と其の娘と死費

甲と持郎家とさ

散々の器ら持の

隊は保善会と

羊とさ上あ

臥、今日の社さ持

臥、大した事な持

中、徳の法采か、妻を

今日も社を休ませ

外、今日も社を休ませ

外、今日も社を休ませ

外、今日も社を休ませ

外、今日も社を休ませ

外、今日も社を休ませ

外、今日も社を休ませ

外、今日も社を休ませ

外、今日も社を休ませ

外、今日も社を休ませ

外、今日も社を休ませ

外、今日も社を休ませ

外、今日も社を休ませ

外、今日も社を休ませ

外、今日も社を休ませ

成り任すおれ  
却

美老人の昨日の如く  
社

したとか、  
今頃、  
し

おと  
改定、  
時日を要す

し、  
まだ  
勝

本に  
た  
つ

互に健康保持  
に

か  
日  
利

一月  
了

田光